

## 宇都宮大学自律寮々歌

1. 鬼怒の流れの果遠く  
かすむ平野の只中に  
恵み豊けき天地の  
わがゆく未の糧として  
生まれ出でたる自律寮
2. 幾世に霜の訪れて  
若木の森を揮うとも  
内にみなぎる友愛の  
泉の水はつきずして  
永久に緑の草はなと咲く
3. 修むる術に光あり  
培う腕に力あり  
理想は高き我寮の  
希望に燃ゆる生命こそ  
若き我等の誇りなれ

## 宇都宮大学自律寮逍遙歌

1. 弦月西に傾きて  
霞に遠くにほいくる  
花の香りや知らねども  
春の夜しばし歌わばや
2. 春三才の旅枕  
仮寝の夢と誰が言う  
花ひとときのいかにて  
青春君に幾くばくぞ
3. 心に狂う春の水  
その汐騒いの高鳴りや  
らんかんめぐり低くぶす  
若き男に連れであれ
4. 月影清き秋今宵  
鬼怒の流れの音澄みて  
銀波声なく舞うところ  
遊子の胸を誰知るや